

(19)日本国特許庁（ J P ）

(12) 登録実用新案公報（ U ）

(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3078757号
(U3078757)

(45)発行日 平成13年7月19日 (2001.7.19)

(24)登録日 平成13年4月18日 (2001.4.18)

(51) Int.Cl⁷

識別記号

F I

A 6 1 B 1/00

300

A 6 1 B 1/00

300

P

評価書の請求 未請求 請求項の数 1書面（全 3 数）

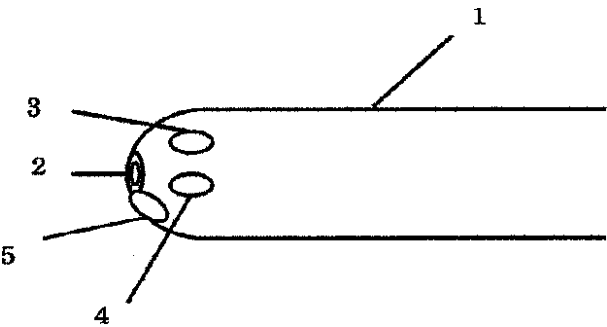
(21)出願番号	実願2000 - 9565(U2000 - 9565)	(73)実用新案権者	501055802
(22)出願日	平成12年12月30日 (2000.12.30)		赤星 和也
			福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗4708番地5号
		(72)考案者	赤星 和也
			福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗4708番地5号

(54) 【発明の名称】 先端流線形型消化管内視鏡

(57) 【要約】

【課題】 従来の内視鏡先端は平面（平坦）構造となっており、消化管収縮部（食道入口部、幽門輪や大腸の収縮輪）通過時に大きな抵抗が生じ、内視鏡挿入時に被検者に苦痛を強いていた。

【解決手段】 内視鏡先端を流線形化した半球状構造とし、消化管狭小部通過時の抵抗を減ずることにより、被検者の苦痛を軽減する。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 消化管内視鏡先端形状 1 の流線形化

【図面の簡単な説明】

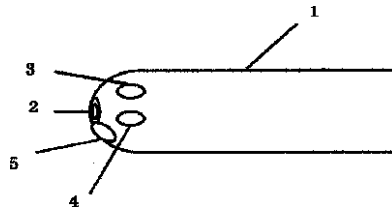
【図 1】 内視鏡先端部の側面図である

【図 2】 内視鏡先端部の前面図である

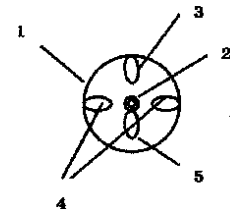
【符号の説明】

- 1 内視鏡本体
- 2 対物レンズ
- 3 鉗子出口、吸引口
- 4 ライトガイド
- 5 送気送水ノズル

【図 1】



【図 2】



【考案の詳細な説明】**【 0 0 0 1 】****【考案の属する技術分野】**

健康（医療用機器）

【 0 0 0 2 】**【従来の技術】**

従来の消化管内視鏡先端は平面（平坦）構造となっていた。

文献：鈴木茂：ベーシック電子内視鏡テキスト。秀潤社：27 - 28 , 1999
。

【 0 0 0 3 】**【考案が解決しようとする課題】**

従来の内視鏡先端は平面（平坦）構造となっており、消化管収縮部（狭小部）通過時に大きな抵抗が生じ、内視鏡挿入時に被検者に苦痛を強いていた。

【 0 0 0 4 】**【課題を解決するための手段】**

内視鏡先端を平面（平坦）構造から流線形化した半球状構造とする。

【 0 0 0 5 】**【考案の実施の形態】**

内視鏡先端を流線形化した半球状構造とすることにより、消化管収縮部（狭小部）通過時の抵抗を減ずる。

【 0 0 0 6 】**【実施例】**

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査

【 0 0 0 7 】**【考案の効果】**

内視鏡の食道入口部、幽門輪（上部消化管内視鏡検査、上部超音波内視鏡検査）や大腸の収縮輪（大腸内視鏡検査）等消化管狭小部の通過が抵抗なく行え、被検者の苦痛軽減、検査の安全性向上と検査時間短縮がはかれる。

专利名称(译)	尖端流动线性胃肠内窥镜		
公开(公告)号	JP3078757U	公开(公告)日	2001-07-19
申请号	JP2000009565U	申请日	2000-12-30
[标]申请(专利权)人(译)	哉Akahoshi		
申请(专利权)人(译)	哉Akahoshi		
当前申请(专利权)人(译)	哉Akahoshi		
[标]发明人	赤星和也		
发明人	赤星 和也		
IPC分类号	A61B1/00		
FI分类号	A61B1/00.300.P		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

解决的问题：当传统的内窥镜尖端具有扁平（平坦）结构并穿过消化道收缩部分（食道，幽门环或大肠收缩环的入口）并插入内窥镜时，会产生较大的阻力。他对考官感到困扰。内窥镜具有流线型的半球形结构，以减少穿过消化道狭窄部分时的阻力，从而减轻受试者的痛苦。

